

## カレーライス危機

小学校の給食メニューの中で、いつも評判の上位に、カレーライスやハンバーグがある。どちらも肉を使う、狂牛病のせいで給食のメニューから遠ざかってしまった。

ハンバーグの普及はカレーに比べてずっと日が浅い。カレーは戦前から日本人の好物であり、いまま洋食の代表選手だ。私達の食生活にこれほどなじみ生まれ、食べ飽きない洋食はカレーライスのほかに無い。

そのカレーライスが食卓から、今敬遠され気味になっているのは、食生活上の一大事件といって良いのかもしれない。

私がかレーに出会った頃、というのは小学校入学前くらい、太平洋戦争前の事になってしまうが、貧乏人の大家族としてはカレーは月に一度の盛大なご馳走だった。カレーの匂いを嗅ぐだけで、私も妹達も興奮してはしゃぎまくったものだった。

戦争が終わっても食糧事情はすぐには好転しなかったが、札幌の狸小路の食堂で、カレーライスが売られ始めたのは昭和二十七・八年頃ではなかったろうか。その頃私は札幌から離れて暮していたのだが、知人からの手紙で知らされて、日曜日にすつとんで札幌へ帰った記憶がある。狸小路の屋台風の食堂の前では、香ばしいかおりに鼻を動めかず長い行列ができていた。

海外旅行をしていると日本食がやたらに食べたくなる。あるツアーで添乗員が「アムステルダムのホテルの夕食でカレーライスが出ます」と云われ、参加者がどよめいた。出されたものは確かにカレー。だがご飯はヨーロッパ流の生煮えみたくてパサパサ、ルーは鼻水みたいにピリリともしない。期待しただけに泣きたかったという思いでもある。

-肉が敬遠されたせいで、ジャガイモと玉ネギの売上げが大幅に落ち込んでいると農業関係者から聞いた。カレーの危機は北海道畑作の危機もはらんでるのだ